

第2次伊那市総合計画 前期基本計画(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.9-①

【基本計画】

整理番号	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局又は事務局の考え方(部長答弁の要旨)
------	----	-------	-----	-----	------------------------

【第4章】

整理番号	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局又は事務局の考え方(部長答弁の要旨)
106	4-3-1 観光現状と課題	「観光産業の重要性」の捉え方は、人によって異なるものである。単なる観光「業」の振興に留まらず、「地域のイメージアップにつながる幅広い効果が期待される」という表現となるよう、「重要性」という言葉をより具体的にかみ砕いた表現で修正されたい。	○観光産業の重要性を意識して、市民の観光への理解と意識の高揚を促し、おもてなしのこころの推進とアテンドへの取組が課題です。	○観光には、地域のイメージアップにつながる幅広い効果が期待されるため、観光に対する市民の理解と意識の高揚を促すとともに、おもてなしのこころの醸成とアテンドへの取組を推進していく必要があります。	(部) 担当部において検討する。 意見を踏まえ、原案を修正します。

【第6章】

整理番号	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局又は事務局の考え方(部長答弁の要旨)
107	6-1-1 環境衛生 第1次総合計画での主な取組	「分別収集の啓発」という記載があるが、そもそもどうして分別が必要なのかという部分の理由がないと納得されないと思う。複合的な要素であると思うが、市民の理解を深めるため、なぜ分別が必要なのか、どうしてここまで細かく分別するのかという理由の記述を検討されたい。	○ごみの排出抑制のため、ごみの分別の周知徹底や適切な収集ステーション管理を行いました。また、食品ロスの削減に取り組みました。	○限りある資源の有効利用と、ごみの排出を抑制するため、ごみの分別の周知徹底や適切な収集ステーション管理を行いました。また、食品ロスの削減に取り組みました。	(部) 文言が入るような形で検討する。 意見を踏まえ、原案を修正します。
108	6-1-1 環境衛生 施策と展開方針 1 ごみの発生抑制・適正なごみの管理	ごみの不法投棄についての記述が無いため、現状と課題、その対策についての記述を検討されたい。		【現状と課題】 ○ごみの不法投棄やポイ捨ては依然として無くなってはいないため、継続的な啓発や監視を行っていくことが必要です。 【施策と展開方針】 ○不法投棄の防止は個人のモラルによるところが大きいため、啓発と監視を継続します。	(部) 検討する。 意見を踏まえ、追記します。
109	6-1-2 住宅・住環境 施策と展開方針 3 空き家対策の推進	再利用が可能な空き家の利活用の問題と荒廃して再利用ができない空き家をどうするかという問題は、分けて考えていくべきである。	○人口減少や高齢化、核家族化等の進行、また社会生活や産業構造の変化等により、空き家は今後も増加が見込まれています。特に、適切に管理されていない空き家等は、防災・衛生・景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼす可能性があります。市民が安全に安心して暮らすことのできるよう空き家等に関する対策を総合的かつ計画的に推進します。	○人口減少や高齢化、核家族化等の進行、また社会生活や産業構造の変化等により、空き家は今後も増加が見込まれています。空き家の適切な管理は、所有者の責任であることを認識してもらうため、広く所有者等に対して空き家問題に関する啓発を図ります。 ○適切に管理されていない空き家等は、防災・衛生・景観等の地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼす可能性があるため、伊那市空き家対策協議会や関係団体などと連携しながら、市民が安全に安心して暮らすことのできるよう対策を推進します。	(部) 空き家対策審議会のことなど、危険性のある荒廃空き家の対策について、追記する。 意見を踏まえ、原案を修正します。
110	6-1-2 住宅・住環境 施策と展開方針 4 中心市街地の活性化	中心市街地だけを活性化するように読み取れるため、なぜ中心市街地の活性化が必要なのかという他地域の住民が納得できる理由、コンパクトシティを推進しているのではないという表現、中心市街地だけでなく、他の地域も同じように活性化するという地域間バランスを踏まえた記述となるように検討されたい。(時代に合わせた中心市街地の機能や役割の見直し、再構築という視点で。)	【現状と課題】 ○空洞化がみられる市街地においては、まちなかへの居住や、定住化を促進する必要があります。 【施策と展開方針】 ○中心市街地の維持・活性化を図るために、民間事業者、地域住民の団体やNPO等と連携し、リノベーション等による多様なまちづくりを行う担い手を育成し、まちなか居住を推進します。	○人口定着や地域の活力の創出には、都市や地域の魅力ある「顔」が必要であり、そのような地域活性化の拠点としての役割を担う中心市街地の再構築が求められています。 ○中心市街地の維持・活性化を図るために、民間事業者、地域住民の団体やNPO等と連携し、リノベーション等による多様なまちづくりを行う担い手を育成します。 ○居住を含む多様な都市機能が高度に複合した魅力ある市街地を構築していくため、「商」と「住」の均衡した都市構造の形成を目的とした「まちなか居住」を推進します。	(部) 記述の意図を理解していただけるような表現となるように修正する。 意見を踏まえ、原案を修正します。
111	6-1-3 上下水道 施策と展開方針 2 災害に強いライフライン化への取組	本管から各家庭までの給水管の部分など、個人の資産として行うべき耐震化対策についての情報提供や指導を含め、地震に強いインフラ整備となるよう事業を推進されたい。	2 災害に強いライフライン化への取組 ○災害に強いライフラインの確保に向けて、上下水道施設の耐震化を推進するとともに、施設の長寿命化を進めます。	(原案のとおり)	(部) 表現できる部分があれば修正する。 原案の「上下水道施設の耐震化」には、個人の上下水道施設の耐震化推進も含まれますので、修正は行いません。意見の趣旨に沿った施策の展開に努めます。

第2次伊那市総合計画 前期基本計画(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.9-①

【基本計画】

整理番号	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局又は事務局の考え方(部長答弁の要旨)
112	6-1-5 地域幹線道路網 施策と展開方針 1 幹線道路網の整備促進	○国道153号のバイパスに関連して計画されている新たな道の駅は、観光、農業、都市計画など多角的かつ長期的に検討していただきたい施設である。より戦略的で魅力的な道の駅となるよう整備をお願いするとともに、そうした視点を文章として表現することができないか検討されたい。 ○時期や場所についてはデリケートな部分もあり、表現は難しい。		○国道153号のバイパス沿線に「重点道の駅」としての設置を検討します。	(部) 表現について検討する。 意見を踏まえ、追記します。
113	6-1-5 地域幹線道路網 施策と展開方針 1 幹線道路網の整備促進	道路の案内標識や看板について、景観に配慮したものとしていく視点について、追記を検討されたい。	【施策と展開方針】 ○リニア中央新幹線長野県駅へのアクセス道路となる国道153号伊那バイパス、国道153号伊駒アルプスロードをはじめ、市内の移動性を高めるため国道152号、国道361号、県道伊那インター線(環状北線)、市道環状南線をはじめとする幹線道路網の整備促進を図ります。	【現状と課題】 ○国道153号伊那バイパス等は、景観に配慮した道路とすることが求められています。 【施策と展開方針】 ○リニア中央新幹線長野県駅へのアクセス道路となる国道153号伊那バイパス、国道153号伊駒アルプスロードをはじめ、市内の移動性を高めるため国道152号、国道361号、県道伊那インター線(環状北線)、市道環状南線をはじめとする幹線道路網の整備促進を図ります。また、幹線道路網の整備にあたっては、沿道の景観を守るため、屋外広告物条例制定による看板の乱立防止などに取り組みます。	(部) 表現について検討する。 意見を踏まえ、追記します。
114	6-1-6 公共交通	課題として記載されている路線バスの運賃負担低減に向けた対策と展開方針についての記述を追記されたい。	【現状と課題】 ○路線バスに関して、運賃負担の低減に関する要望が多くあります。 【施策と展開方針】 ○路線を守り育てる会による運行内容の検討を通じ、地域の実情に合った公共交通を整備し、住民の移動手段の確保を図ります。	【現状と課題】 ○路線バスに関して、市街地までの移動に路線の乗継ぎが必要な周辺部を中心に、運賃負担の低減が求められています。また、居住地が停留所から離れているため路線バスを利用できない高齢者等への対応が課題となっています。 【施策と展開方針】 ○路線を守り育てる会による多様な活動を通じ、地域の実情に合った公共交通の整備や、住民の移動手段の確保を図るとともに、運賃負担のあり方について検討します。また、運行事業者、地域、行政が連携して利用促進に取り組み、公共交通の維持・存続を図ります。	(部) 総合的に構成を見直し、内容を充実させる。 意見を踏まえ、原案を修正します。
115	6-1-6 公共交通	リニアに関係した2次交通、3次交通など市としての考え方、取組の方針について追記されたい。	【現状と課題】 ○JR飯田線に関して、リニア中央新幹線の開通に向けた乗換新駅の計画が進められています。	【第1次計画での取組】 ○リニア中央新幹線については、長野県、関係市、広域連合等が参画する伊那谷自治体会議において、長野県駅周辺のまちづくりや長野県駅までのアクセスについて検討を進めるとともに、講演会やフォーラム等を開催し、リニア中央新幹線の開業に向けた地域の意識高揚に取り組みました。 【現状と課題】 ○JR飯田線に関して、リニア中央新幹線の開通に向けた乗換新駅の計画が検討されており、リニア中央新幹線へのアクセスのひとつとして期待されている一方で、高速化が難しいなどの課題があります。 ○リニア中央新幹線の整備効果を広く波及させるためには、長野県駅からE19中央自動車道等を活用した2次交通の整備、さらに2次交通と市内地域公共交通との連携が不可欠となっています。 【施策と展開方針】 ○リニア中央新幹線の開業を見据える中で、JR飯田線の活性化に取り組みとともに、行政機関や企業、関係団体などが連携した2次交通の整備促進など、アクセスの向上に取り組みます。	(部) 総合的に構成を見直し、内容を充実させる。 意見を踏まえ、原案を修正します。

第2次伊那市総合計画 前期基本計画(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.9-①

【基本計画】

整理番号	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局又は事務局の考え方(部長答弁の要旨)
116	6-1-6 公共交通	自動運転などの新技術を活用した課題解決の方向性など、追記を検討されたい。併せて、運行事業者のドライバー不足が深刻な課題となっているため、そうした課題に対する施策や展開方針についても、追記を検討されたい。		<p>【第1次計画での取組】</p> <p>○将来、地域公共交通を担うことが期待される自動運転技術の進展に向けて、国と協力して長谷地域の道の駅を拠点としたバス車両による自動運転サービスの実証実験に取り組みました。</p> <p>【現状と課題】</p> <p>○交通業界におけるドライバー不足が深刻化しており、今後、路線バスや乗合タクシーなどの運行に影響が出る可能性があります。こうした状況の中、ライドシェアのような新しい輸送形態や、AIを活用した最適運行・自動配車システム、自動運転サービスなどの新技術が交通業界における課題解決に繋がるものと期待されています。</p> <p>【施策と展開方針】</p> <p>○交通事業者や関係機関の協力を得ながら、AIを活用した最適運行・自動配車システムや自動運転サービスなどの社会実装に向けた実証実験や試験運行に取り組み、将来にわたって持続可能で効率性の高い公共交通システムの構築を目指します。</p>	(部) 総合的に構成を見直し、内容を充実させる。 意見を踏まえ、追記します。
117	6-2-1 防災・減災 現状と課題	有事の際に公助に期待するだけではどうにもならないというのが、防災の勘所であり、地域として災害に備えるという意味で、もう少し突き放す表現をしておく必要があると思う。「自助・共助」の部分の啓発の強化について、表現を検討されたい。	○市民一人ひとりの防災意識を高め、災害時に自分の身を自分で守ることができるようにするとともに、地域の防災リーダーを育成して、地域の助け合う力を向上させていく必要があります。	○市民一人ひとりの防災意識を高め、災害時に自分の身を自分で守る「 <u>自助</u> 」に係る準備を周知するとともに、地域の防災リーダーを育成し、地域の中で助け合う「 <u>共助</u> 」を向上させていく必要があります。 ○災害時は電気・水道・ガス等のライフラインが停止するため、各家庭で数日間生き抜くための食料等の備蓄や代替可能な設備や機器等を備えておく必要があります。	(部) 表現について検討する。 意見を踏まえ、追記・修正をします。
118	6-2-1 防災・減災 施策と展開方針 1 地震対策の推進 2 水害及び土砂災害対策の向上	「一時集合場所」が本当に安全な場所であるのか疑問である。安全な場所へ「一時集合場所」を設定する必要があると考えるため、対策として位置づけが必要ではないかと考える。	1 地震対策の推進 ○地震災害における地域住民の一時集合場所から集約する市内安否確認の確立を推進していきます。 2 水害及び土砂災害対策の向上 ○水害等における地域住民の一時集合場所から集約する市内安否確認の確立を推進していきます。	1 地震対策の推進 ○地震災害について、地域で安全な一時集合場所を定めるとともに、地域住民で集約する安否確認、情報伝達体制の整備を進めます。 2 水害及び土砂災害対策の向上 ○水害及び土砂災害について、地域で安全な一時集合場所を定めるとともに、地域住民で集約する安否確認、情報伝達体制の整備を進めます。	(部) 表現の整理を含め、分かりやすい表現となるように検討する。 意見を踏まえ、原案を修正します。
119	6-2-1 防災・減災 施策と展開方針 2 水害及び土砂災害対策の向上	土砂災害警戒区域の周知が弱いと感じられるため、「広報」や「周知」という表現を追記するとともに、公民館や集会所などへ掲示する取組を推進されたい。	○防災対策として重要なハード面の整備及び意識の向上について、関係機関や市民と協力し実施していきます。	○防災対策として重要なハード面の整備及び住民の避難意識向上について、 <u>地域や関係機関と協力し実施</u> していきます。 ○ <u>防災マップの効果的な活用により、土砂災害警戒区域や浸水想定区域を周知</u> します。	(部) 表現について検討する。 意見を踏まえ、追記・修正をします。
120	6-2-1 防災・減災 施策と展開方針 3 自主防災組織の充実	世帯数の減少などから、機能していないと思われる自主防災組織があるため、組織の再編など、実効性のある組織とするための方向性について記述を検討されたい。	○各自主防災組織が相互に情報交換をする場を提供し、自主防災組織の活動レベルの底上げと連携を強化していきます。	○各自主防災組織が相互に情報交換をする場を提供し、自主防災組織の活動レベルの底上げを <u>図るとともに、連携の強化と実効性のある組織再編等を進めて</u> いきます。	(部) 原案で読み取れるか含め、再検討する。 意見を踏まえ、原案を修正します。
121	6-2-1 防災・減災 施策と展開方針 3 自主防災組織の充実	地区の山作業や清掃作業など既存の作業の中に自主防災組織という概念を組み入れていけば、自主防災組織というものが形骸化しないのではないかと思う。表現として「防災訓練の仕組みづくり」のような言葉で表現されたい。		○ <u>各自治会の活動も含め、自主防災組織として効果的に実践的な防災訓練の仕組みづくりを進めます。</u>	(部) 表現について検討する。 意見を踏まえ、追記します。

第2次伊那市総合計画 前期基本計画(原案)に対する意見整理表(総合計画審議会)

資料No.9-①

【基本計画】

整理番号	箇所	意見の概要	修正前	修正後	担当部局又は事務局の考え方(部長答弁の要旨)
122	6-2-1 防災・減災 まちづくり指標(KPI)	KPIの自主防災組織連絡会の加入団体数について、機能の分配や再編を考えた時、目標値の174団体が適切かどうか再度検証されたい。	自主防災組織連絡会(仮称)設立による加入団体数 現状値 0団体 2017(H29) 目標値 174団体 2023	<u>積極的な防災訓練等(年2回以上)を実施している自主防災組織の割合</u> 現状値 10% 2017(H29) 目標値 30% 2023	(部)現状値を含め見直しを行う。 意見を踏まえ、原案を修正します。
123	6-2-1 防災・減災 まちづくり指標(KPI)	KPIの一般住宅の耐震化率について、現状値が高すぎると感じるため、再度確認いただき、必要があれば修正されたい。	まちづくり指標(KPI) 一般住宅の耐震化率 現状値 82% 2016(H28) 目標値 90% 2023	(原案のとおり)	(部)確認する。 【H28】 持ち家総数:19,726…A ①S56以前建設:7,010 ①のうち耐震性あり(または改修済):3,397…B ①のうち耐震性不明:3,613 ②S56以後建設(耐震性あり):12,716…C ●耐震性を満たす建物:(B+C)/A=81.68%≒82%
124	6-2-2 消防 【施策分野における現状と課題】	常備消防と消防団の役割分担が明確でないと感じるため、記述について検討されたい。		○伊那市の消防体制は、消防活動を専任して行う上伊那広域消防(常備消防)と、仕事を持ちながら消防活動を行う消防団(非常備消防)が組織されています。消防団は管轄区域の消防署と連携し、主に常備消防の後方支援活動を行っています。	(部)追記する方向で検討する。 意見を踏まえ、追記します。
125	6-2-2 消防 施策と展開方針 3 消防団の維持継続	消防団員のみならず、団員の家族の負担も軽減する視点の記述を検討されたい。	○消防団組織の再編成により、組織機能の維持と団員の負担軽減を行います。また、消防団員の地域認知度向上のため、消防団の広報活動を行い、団員の確保を図ります。	○消防団組織の再編成により、組織機能の維持、団員とその家族の負担軽減を行います。また、消防団員の地域認知度向上のため、消防団の広報活動を行い、団員の確保を図ります。	(部)追記する方向で検討する。 意見を踏まえ、原案を修正します。
126	6-2-2 消防 施策と展開方針 3 消防団の維持継続	消防団員の活動や苦勞を、地域住民が理解していないと感じられる。各地区で消防団員へ感謝の意を表し、慰勞する機会の創出に努めていただく必要がある。総合計画への記載も検討されたい。		○消防団と地域で相互に顔の見える関係を築き、消防団の活動状況の周知や必要性和役割を理解してもらうとともに、地域住民の協力を得て、団員の加入促進と消防団の維持継続を図ります。	(部)地域の中で消防団員を選んでいただいているという観点から、記述を検討する。 意見を踏まえ、追記します。
127	6-2-3 交通安全	高齢運転者の危険運転が増加したと感じる背景には、公共交通機関の利便性が悪いという課題から、免許をなかなか返納できないという理由もあると思う。交通安全の観点からも、代替交通の確保などに関する記載があってもよいと思うので、記載を検討されたい。	6-1-6 公共交通 【施策と展開方針】 1 公共交通の維持及び利用促進 ○鉄道、路線バス、乗合タクシーなどの公共交通手段ごとに、利用目的や利用者に合った運行内容の実現に向けて取り組みます。 ○鉄道、路線バスなどの公共交通の結節点の環境を整備し、運行の連携を図ることによって、相互の利便性を高めます。	6-1-6 公共交通 【施策と展開方針】 1 <u>利便性の高い持続可能な公共交通システムの構築</u> ○鉄道、路線バス、乗合タクシーなどの多様な交通手段の結節点により、高齢者や学生などの利用者層や、買い物、通院、通学などの利用目的に合った運行の仕組づくりに取り組みます。 ○ <u>公共交通空白地の解消に努めるとともに</u> 、鉄道、路線バスなどの公共交通の結節点の環境を整備し、運行の連携を図ることによって、相互の利便性を高めま す。 6-2-3 交通安全 【施策と展開方針】 3 交通安全活動の充実 ○ <u>高齢者が不安なく免許返納出来るよう、公共交通やボランティア輸送等の各種交通手段を多角的に機能させることを目指します。</u>	(部)表現について部を横断して検討する。 意見を踏まえ、追記します。